

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-306774

(43)Date of publication of application : 02.11.2000

(51)Int.Cl.

H01G 9/004

H01G 2/00

H01G 4/00

H01G 9/012

H01G 9/14

(21)Application number : 11-112046

(71)Applicant : MATSUSHITA ELECTRIC IND CO  
LTD

(22)Date of filing : 20.04.1999

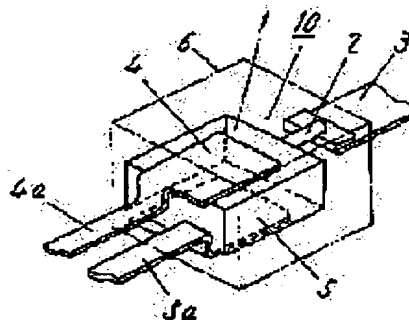
(72)Inventor : UNOKUCHI TAKEHIKO

## (54) FIXED CAPACITOR

## (57)Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To efficiently prevent noise up to high frequency by leading an electrode being led from a capacitor element body, using a configuration of a plurality of terminals.

**SOLUTION:** A conductive resin 6 is applied to a cathode part 1 of a capacitor element 10. A first leading electrode 4 and a second leading electrode 5 are jointed to the cathode part 1 via a conductive adhesive or the like to lead the negative electrode of the capacitor element 10. A first cathode terminal 4a and a second cathode terminal 5a are constituted and led from the first leading electrode 4 and the second leading electrode 5, respectively, in one piece. An anode part 2 of the capacitor element 10 is jointed to an anode terminal 3 that is led as a positive electrode through welding or the like. Also, at least two out of at least three terminals for external leading being connected is connected to the anode part. Also, a tantalum wire is used for the cathode- leading wire, and tantalum is used for metal for valve operation.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 02.09.2002

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 31.08.2004

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-306744

(P2000-306744A)

(43) 公開日 平成12年11月2日 (2000. 11. 2)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テマコード* (参考)
H 0 1 F 27/34		H 0 1 F 27/34	5 E 0 4 4
27/32		27/32	C 5 E 0 5 8
30/00		H 0 2 M 7/06	P 5 H 0 0 6
// H 0 2 M 7/06		H 0 1 F 31/00	M
			A

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 4 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願平11-111536

(22) 出願日 平成11年4月20日 (1999. 4. 20)

(71) 出願人 390005223

株式会社タムラ製作所

東京都練馬区東大泉1丁目19番43号

(72) 発明者 黒瀬 正訓

埼玉県坂戸市千代田5丁目5番30号 株式

会社タムラ製作所埼玉事業所内

(72) 発明者 佐々木 靖

埼玉県坂戸市千代田5丁目5番30号 株式

会社タムラ製作所埼玉事業所内

(74) 代理人 100081259

弁理士 高山 道夫

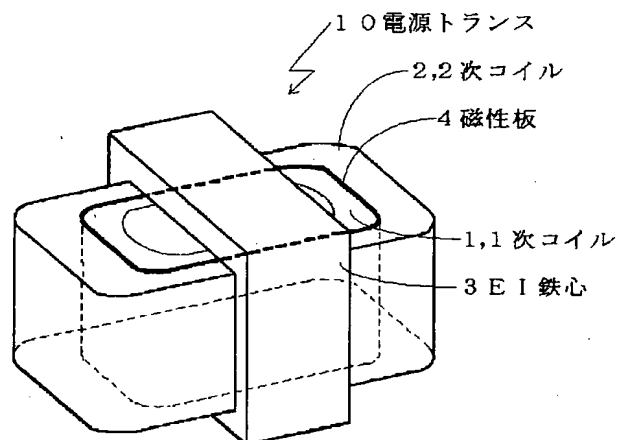
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 電源トランス

(57) 【要約】

【課題】 コンデンサ入力型の整流回路の場合はチョーク入力型の整流回路とは異なって、コンデンサ充電電流はピーク電流値の高い高調波成分の多い電流となり、電源トランスの1次側である電源電圧波形を歪ませるという課題があった。

【解決手段】 電源トランス10の1次コイル1-2次コイル2間に1回は複数回の巻装した磁性板4により、磁性板4とE I 鉄心3の中央脚との間、および磁性板4とE I 鉄心3の側脚との間に、磁路を形成する。これらの磁路による漏洩磁束により、電源トランス10の1次コイル1と2次コイル2に直列にリアクトルを付加したることと同じ機能をもたせる。これらの仮想的なリアクトルを有する電源トランス10を使用することにより、コンデンサ入力型でもチョーク入力型の整流回路と同等の働きをさせることができる。



**【特許請求の範囲】**

【請求項1】 E I 鉄心(3)の中央脚の内側に1次コイル(1)を外側に2次コイル(2)又はその逆を同心配置した電源トランスにおいて、1次コイル(1) - 2次コイル(2)間にコイルの巻幅とほぼ等しい幅の磁性板(4)を1回又は複数回を巻装したことを特徴とする電源トランス。

**【発明の詳細な説明】****【0001】**

【発明の属する技術分野】本発明は、コンデンサ入力型の整流回路の電源として使用される電源トランスに関する。

**【0002】**

【従来の技術】従来、E型鉄心及びI型鉄心からなるE I 型鉄心の中央脚に1次コイル及び2次コイルが配置された電源トランスが多く用いられている。

【0003】図5は従来例における電源回路の回路図であり、図6は、従来例における電源トランスの1次側の電圧電流波形図である。図において、Eは交流電源、Tは電源トランス、Dは整流器、Cはコンデンサ、RLは負荷、V1a'は1次側交流電圧、I1a'は1次側交流電流、I2a'は2次側交流電流である。整流器Dの入力端子は電源トランスTの2次側に接続されて入力電流の全波整流を行う。出力端子には負荷RLと出力電圧を平滑するためのコンデンサCが接続されている。負荷RLに負荷電流が流れるときは、整流器Dを介してコンデンサCが充電され、この高いピーク電流値を持つコンデンサCの充電電流と同一の2次側交流電流I2a'が電源トランスTの2次側に流れ、さらに相互誘導により2次側交流電流I2a'と相似形の1次側交流電流I1a'が流れる。

【0004】これらの電源トランスTの1次側と2次側は電磁的結合が良い(=結合係数が大きい)ため、整流器Dを介してコンデンサCを充電する充電電流を抑制するインピーダンス(インダクタンスを含む)が小さい。従って、電源トランスTの1次側に流れる1次側交流電流I1a'は充電電流に対応したピーク値が高い電流である。

**【0005】**

【発明が解決しようとする課題】図6に示されているように、従来の電源トランスがコンデンサ入力型の整流回路の電源として使用された場合は、電源トランスTの1次側に流れる1次側交流電流I1a'はピーク値が高く、高調波成分の多い電流となる。これは、電源システムの力率を悪くし、電源電圧波形を歪ませる等の課題があった。

【0006】本発明はこのような点に鑑みてなされたものであり、コンデンサ入力型の整流回路の電源として使用された場合でも、1次側交流電流のピーク値を抑制し、高調波成分を少なくする電源トランスを提供することを目的とする。

**【0007】**

【課題を解決するための手段】電源トランス10の1次コイル1 - 2次コイル2間に巻装した磁性板4により、磁性板4とE I 鉄心3の中央脚との間、および磁性板4とE I 鉄心3の側脚との間に、磁路を形成する。これらの磁路による漏洩磁束は電源トランス10の1次コイル1と2次コイル2との電磁的結合を悪く(=結合係数が小さい)し、電源トランス10の1次コイル1と2次コイル2に直列リアクタンスを付加したことと同じ機能をもたせることができる。

**【0008】**

【発明の実施の形態】上記課題を解決するために本発明の電源トランスは、E I 鉄心3の中央脚の内側に1次コイル1を外側に2次コイル2又はその逆を同心配置した電源トランスにおいて、1次コイル1 - 2次コイル2間にコイルの巻幅とほぼ等しい幅の磁性板4を1回又は複数回を巻装したことに特徴を有している。

**【0009】**

【実施例】以下、本発明の一実施例を図面に基づいて説明する。図1は本発明の1実施例における電源トランスの斜視図であり、図2は本発明の1実施例における電源トランスの断面図である。図において、10は電源トランス、1は1次コイル、2は2次コイル、3はE I 鉄心、4は磁性板である。磁性板4は、コイル幅とほぼ等しい帯状の方向性ケイ素鋼板、無方向性ケイ素鋼板等である。この磁性板4を鉄心3の中央脚の内側に配置された1次コイル1と外側に配置された2次コイル2との間に少なくとも1回以上巻装する。

【0010】電源トランス10のE I 鉄心3の中央脚の内側に配置された1次コイル1と外側に配置された2次コイル2との間に巻装された磁性板4は、E I 鉄心3の中央脚とE I 鉄心3の側脚との間に各々磁路を形成する。

【0011】磁性板4とE I 鉄心3の中央脚とにより形成した磁路が1次コイル1を貫通するために1次コイル1に付与された仮想的なりアクトルとなり、磁性板4とE I 鉄心3の側脚により形成した磁路が2次コイル2を貫通するために2次コイル2に付与された仮想的なりアクトルになる。また、この1次コイル1、2次コイル2に付与される仮想的なりアクトルの大きさは、磁性板4の形状を変更することによって、大きく変化させることが可能である。

【0012】図3は本発明の1実施例における電源回路の等価回路図であり、図4は本発明の1実施例における電源トランスの1次側の電圧電流波形図である。図において、Eは交流電源、Tは電源トランス、L1は1次コイル1に付与された電源トランスTの1次側リアクトル、L2は2次コイル2に付与された電源トランスTの2次側リアクトル、Dは整流器、Cはコンデンサ、RLは負荷、V1aは1次側交流電圧、I1aは1次側交流電

流、 $I_{2a}$ は2次側交流電流である。

【0013】整流器Dの入力端子は電源トランスTの2次側に接続されて入力電流の全波整流を行う。出力端子には負荷RLと出力電圧を平滑するためのコンデンサCが接続されている。負荷RLに負荷電流が流れるときは、整流器Dを介してコンデンサCが充電され、コンデンサCの充電電流と同一の2次側電流が電源トランスTの2次側に流れ、さらに相互誘導により2次側電流と相似形の1次側電流が流れることになる。このときのコンデンサCの充電電流は、リアクトルL1およびリアクトルL2によって、ピーク電流値が抑制され、従って、2次側交流電流 $I_{2a}$ も1次側交流電流 $I_{1a}$ もピーク電流値が抑制される。

【0014】このため、1次側交流電流 $I_{1a}$ はピーク値の低い高調波成分の少ない電流となる。図6と比較して、1次側交流電流 $I_{1a}$ はピーク値の低い高調波成分の少ない電流である。

【0015】従って、2次側にコンデンサ入力型の整流回路を接続した場合、コンデンサCを充電する2次側交流電流 $I_{2a}$ のピーク値を抑制し、1次側交流電流 $I_{1a}$ のピーク電流値を抑制することにより高調波成分の少ない電流とし、電源電圧波形を歪ませたり、送電線の損失を増大させることが低減できる。

【0016】

【発明の効果】以上説明したように、本発明の電源トランスは、E1鉄心3の中央脚の内側に1次コイル1を外側に2次コイル2又はその逆を同心配置した電源トランスにおいて、1次コイル1-2次コイル2間にコイルの巻幅とほぼ等しい幅の磁性板4を1回又は複数回を巻装したことにより、電源トランス10の1次コイル1と2次コイル2に直列にリアクトルを付加したことと等価となるので、出力側にコンデンサ入力型の整流回路を接続した場合でも、コンデンサの充電電流を抑制し、1次側および2次側を流れる電流のピーク電流値を抑制して高調波成分の少ない電流とすることができる。また、磁性

板4の形状を変更することによって、リアクトルの値を大きく変化させることが可能であり、電源トランス10に接続される負荷RLの変化に容易に対応させることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の1実施例における電源トランスの斜視図である。

【図2】本発明の1実施例における電源トランスの断面図である。

【図3】本発明の1実施例における電源回路の等価回路図である。

【図4】本発明の1実施例における電源トランスの1次側の電圧電流波形図である。

【図5】従来例における電源回路の回路図である。

【図6】従来例における電源トランスの1次側の電圧電流波形図である。

【符号の説明】

10 電源トランス

1 1次コイル

2 2次コイル

3 E1鉄心

4 磁性板

E 交流電源

T 電源トランス

L1 リアクトル

L2 リアクトル

D 整流器

C コンデンサ

RL 負荷

$V_{1a}$  1次側交流電圧

$I_{1a}$  1次側交流電流

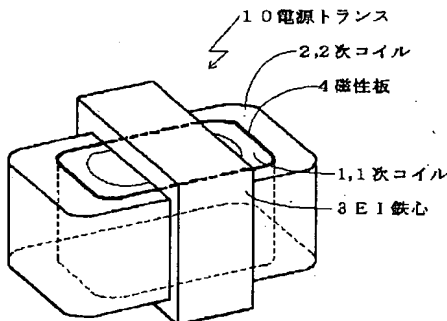
$I_{2a}$  2次側交流電流

$V_{1a'}$  1次側交流電圧

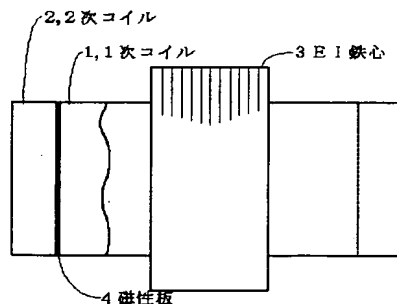
$I_{1a'}$  1次側交流電流

$I_{2a'}$  2次側交流電流

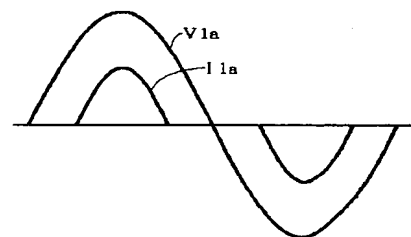
【図1】



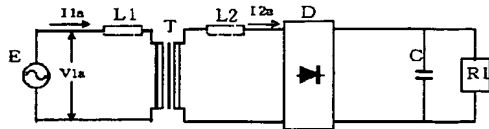
【図2】



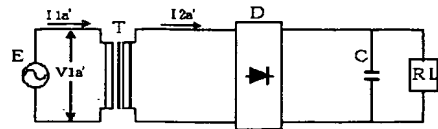
【図4】



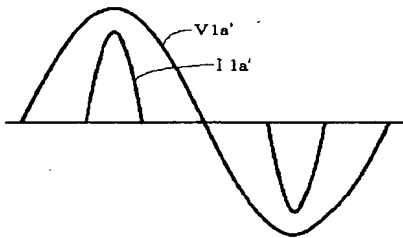
【図3】



【図5】



【図6】



フロントページの続き

(51) Int. Cl. 7

識別記号

F I  
H 0 1 F 31/00

テマコード (参考)  
R

F ターム (参考) 5E044 DA01  
5E058 BB09 BB19  
5H006 AA02 CB01 CC01 DA02 HA09  
HA84